

学生大使 実施報告書

氏名：吉田悠奈

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部人文社会科学科人間文化コース2年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024/2/21～2024/3/6

1 日本語教室での活動内容

日本語を勉強する人が集まる日向クラブでは、大学生や社会人、小さい子どもなど幅広い年代のベトナム人と交流をした。日本語の勉強を始めて間もない人には、事前に用意したひらがなのドリルを使ってひらがなを書く練習のサポートをした。日本語は通じないため、英語やスマートフォンの翻訳機能を使って簡単な単語の意味を教えた。しかし、自分の英語や翻訳機能だけでは思うように伝わらないことも多く、とても苦労した。言葉で伝わらないときは絵を描いたり写真を見せたりしてあきらめずに伝える努力をした。日本語のレベルが高い人には日本語を教えるのではなく日本語で日本の文化やベトナムの文化についての会話をした。自分が日本の食べ物や観光地などを紹介するとベトナム人たちはとても興味を持ち、いつか日本に行きたいと言ってくれた。ベトナム人たちは私に美味しいベトナム料理やおすすめのお土産などをたくさん教えてくれた。日向クラブでは、日本語の勉強だけでなく日本文化を楽しむ日も設けられた。日本人学生が持ち寄った日本のお茶とお菓子を食べながら折り紙を折った日は和やかでとても楽しかった。折り紙が初めてというベトナム人に鶴の折り方を教えると、苦戦しながらも熱心に折りきれいな鶴を作ってくれた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外では、ベトナム人の皆さんが毎日観光地やショッピングモール、大学周辺の商店街などに連れて行ってくれた。様々な場所を訪れる中で、日本ではできない体験をたくさんすることができた。例えば、横断歩道がない道路の横断である。ベトナムでは車やバイクが無秩序に走っている。横断歩道や信号はほとんど役割を果たしておらず、自分で渡れるタイミングを見計らって横断しなければならない。細い道の横断はそれほど難しくはないが、3車線の大きい道路を横断したことは忘れられない。ベトナム人学生が私たちの周りについて安全を確認しながら一緒に歩いてくれたため渡りきることができたが、日本では絶対にできない経験だと思った。また、毎日の食事印象深い。この2週間は毎日ベトナム料理を食べた。初めは慣れない味に戸惑ったが、最終日にはベトナム料理が大好きだと思えるほどおいしく感じられるようになった。毎回ベトナム人が食べ物の解説をしてくれて、理解を深めながらベトナム料理を楽しむことができた。特においしかったのはバインクオンという料理である。バインクオンは、もちもちの米粉の生地にくらげやひき肉を混ぜて巻いたものを肉や野菜が入っている甘いスープにつけて食べる料理である。ベトナム人はよく食べる料理のようで、私もこの2週間で3回はこの料理を食べた。もし再度ベトナムに行く機会があ

【学生大使 実施報告書】

ればまた食べたい。日本語教室だけでなく大学の英語の授業に参加したことも印象に残っている。日向クラブのメンバーではない英語しか通じないベトナム人学生と話すのは緊張したが、ベトナム人学生はみんな元気で優しく、お互いうまく英語が通じなくても身振り手振りで意思疎通することができた。パワーポイントで日本の文化を紹介すると熱心に説明を聞き、たくさん質問をしてくれた。慣れない英語での会話はとても疲れたが、日本語を話せないベトナム人学生とも会話ができたとうれしかった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

このプログラムでの目標は、ベトナム人学生と積極的にコミュニケーションをとるということだった。この目標は達成できたと感じている。最初は初対面のベトナム人学生に対して遠慮がちに話すことが多く、日中の活動でもただベトナム人学生が案内してくれたところについて行くだけであったが、何度も会ううちに仲が深まり気軽に行きたい場所や食べたいものなどをリクエストして自分からベトナム人学生に関わることができるようになった。自分が思ったことをすぐ言葉にして伝えたりベトナム人学生がおもしろいことをしていたら写真を撮ってあげたりなど、気軽に関われる関係になることができた。努力したことは、簡単な単語や文法を使った「やさしい日本語」を使ってベトナム人学生と話すことである。活動中は難しい言葉は避けて、ゆっくりと話すように心がけた。日向クラブのメンバーとの会話では私が話す日本語が通じないことはほとんどなかったため、「やさしい日本語」を使うことができたのではないかと感じている。

4 プログラムに参加した感想

このプログラムに参加して本当に良かったと思う。日本とは違うベトナムの文化に直接触れることで日本の当たり前が当たり前ではないことを改めて強く感じることができた。また、ベトナム人学生ととても仲良くなることができ、貴重な時間を過ごすことができたと感じる。日本人とベトナム人は考え方が似ているためいつも同じ感情を共有できとても楽しかった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私は、今回の学生大使での経験を留学生のチューター業務に活かしたいと考えている。私は今回が初めての海外渡航で、初めて自分が外国人になるという経験をした。そこで感じたのは、言葉の壁は想像以上に大きかったということである。ベトナムの町を歩くとき、目や耳に入ってくる言語の意味はまったく分からず、常に不安な状態だった。何の店なのか、売られているものは何なのか、お店の人は何を言っているのか、人々は何の話をしているのか。ベトナムにいる間は自分は何もできない小さな存在であり、ベトナム人学生がいなければ生活できなかった。このような経験から、山形に来た留学生も慣れない言語であふれている環境の中で生活することはとても不安なのではないかと考えるようになった。自分が今後留学生のチューターを務めることになったときは、留学生のそのような不安を少しでも軽減させることができるように留学生に寄り添って丁寧なサポートをするように心がけたいと思った。

6 現地での活動写真

日本語教室



ベトナム国家農業大学



【学生大使 実施報告書】

ハロン湾



バインクオン

